

各国の原子力発電所の運転期間(初期運転期間と延長運転期間)の制度的枠組

2023年1月25日
(一社)日本原子力産業協会

	運転期間 タイプ	初期期間 の長さ	原子炉型	初期期間の長さ に関する注釈	長期運 転のた めの 延長期間	長期運 転のた めの 延長期間 に関する注釈
アルゼンチン	期間限定	10年	PHWR	原子炉の当初の設計 寿命は約30年	10年	追加の25-30年運転を許可するための 運転期間延長プログラムを策定
ベルギー	期間限定 せず	期間限定 せず	PWR	原子炉の当初の設計 寿命は40年	10年	3基がさらに10年間の運転を許可され た
カナダ	期間限定	10年	PHWR	ケースバイケースで判 断:原子炉の当初の設 計寿命は約30年	10年	改修プロセスによって原子炉の数十年間 (例えば30年)の運転延長が可能に
チェコ	期間限定 せず	期間限定 せず	PWR	原子炉の当初の予想 寿命は約30年	期間限定 せず	原子炉が安全義務を履行し続ける限り運 転期間制限なし。継続的安全評価、特別 安全評価、PSRなど実施が条件
フィンランド	期間限定	30年また は40年	PWR, BWR	通常原子炉の当初の 設計寿命に基づき、ケ ースバイケースで判断	ケースバイ ケース (実際には 20年)	運転延長認可の更新回数に制限なし
フランス	期間限定 せず	期間限定 せず	PWR	特定設備の当初の設 計想定は40年	期間限定 せず	安全要件を履行する限り運転期間制限 なし、10年毎のPSR実施
ハンガリー	期間限定	30年	PWR	原子炉の当初の設計 寿命に基づく	20年	運転認可の更新は1回のみ許可
日本	期間限定	40年	PWR, BWR	—	20年	運転認可の更新は1回のみ許可
韓国	期間限定	30年/40 年/60年	PWR, PHWR	原子炉の当初の設計 寿命に基づく	10年	運転延長認可の更新回数に制限なし
オランダ	期間限定 せず	期間限定 せず	PWR	原子炉の当初の設計 寿命は40年	ケースバイ ケース	安全報告書で規定された40年の技術的 設計寿命を超える運転は、運転認可の 修正も必要な安全報告書の更新が必 要。原子炉の技術的設計寿命は20年間 追加延長されるが、運転認可は依然とし て「期間限定せず」のままである
ルーマニア	期間限定	30年	PHWR	原子炉の当初の設計 寿命等に基づく	ケースバイ ケース	運転延長認可の更新回数に制限なし
ロシア	期間限定	30年	PWR, LWGR, FBR	原子炉の当初の設計 寿命等に応じてケース バイケースで判断	ケースバイ ケース	運転延長認可の更新回数に制限なし
スロバキア	期間限定 せず	期間限定 せず	PWR	—	期間限定 せず	安全要件を履行する限り運転期間制限 なし、10年毎のPSR実施
スロベニア	期間限定	40年	PWR	原子炉の設計寿命に 基づく	10年	運転延長は2回のみ許可(合計20年)
スペイン	期間限定	10年	PWR, BWR	ケースバイケースで判 断:原子炉の当初の設 計寿命は約40年	10年	ケースバイケースで判断
スウェーデン	期間限定 せず	期間限定 せず	PWR, BWR	原子炉の当初の設計 寿命は40年	期間限定 せず	安全要件を履行する限り運転期間制限 なし、10年毎のPSR
スイス	期間限定 せず	期間限定 せず	PWR, BWR	—	期間限定 せず	安全義務を値攻する限り運転期間の制 限なし;運転40年後は長期運転のため の安全性実証と10年毎のPSRが必要
ウクライナ	期間限定	30年	PWR	原子炉の当初の設計 寿命に基づく	10-20年	運転期間延長の回数に制限なし
英国	期間限定 せず	期間限定 せず	AGR, PWR	—	期間限定 せず	10年毎のPSRを含め安全義務を履行 する限り運転期間の制限なし
米国	期間限定	40年	PWR, BWR	—	20年	運転延長認可の更新回数に制限なし

出典: OECD/NEA 報告書“Legal Frameworks for Long-Term Operation of Nuclear Reactors”(2019年)